

藤巻尾根山スキー山行報告

【山城】妙高・神奈山

【日程と天気】2019年1月25日(土)曇り

【メンバー】CL 菊池・池田・坂倉(会員外)

【行程】

千葉ー関温泉休暇村隣接・五最杉駐車スペースー林道(780m)9:00ー藤巻山への東尾根ー藤巻山ー藤巻尾根ー台地ー13:50 尾根 1520m地点ー往路を滑走ー15:03 林道ー駐車場



- ・ヤマレコ報告でBCツアーがそれなりに楽しめそうなエリア神奈山・藤巻尾根(25日)と鍋倉山(26日)に行ってきた。関温泉スキー場は積雪180cm、前日に10cm前後の降雪あり、一般的に使用する休暇村の林道から橋を渡ってすぐの南東尾根に向かうやや急な尾根に先行トレースがあるが、しばらく林道を進み、最近小生が良く選択する藤巻山に向かう傾斜の緩い東尾根に取りつくことにした。積雪が少なく林道は小さな沢が埋まっておらず、予想外の板を外して



の渡渉が2回、先が思いやられた。例年通りの積雪なら楽に登れるルートであるが、ご覧の通り難行苦行の標高差60~70mであった。緩斜面になり漸く苦行から解放された。



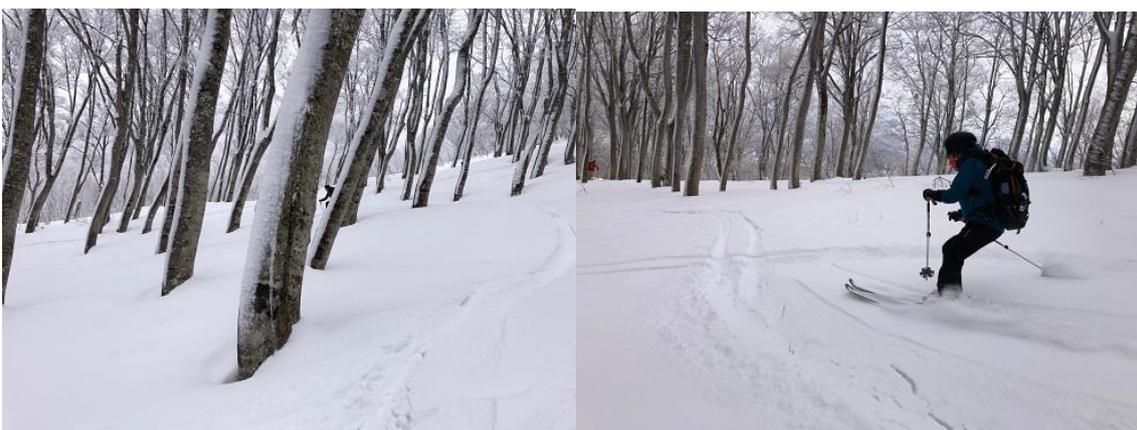
- ・藤巻山を通過し標高1000m位になると漸く滑走できそうな素晴らしいブナ林に移行。早くも上越からの単独の若者が滑走してきた。彼は6時頃スタート、橋を渡ってすぐの登りのトレースは彼のもので、登りは問題なかったが滑走は藪で大変であろうと我々の登りのルートで滑走するつもりとのこと、藪々で気を付けるようにアドバイスした。前日の降雪によるブナの木のお化粧直し、素晴らしいですね。テンションが一気に上がってきました。ブナ林帯は一部藪が気になるエリアがあるが概ね滑走には問題ない。



- ・標高1400m程の台地への移行部は、例年は低木が埋まって広い真白な緩斜面であるが、今年はこんな感じである。上部の視界は不良であるが、標高1520mまで登り上げエントリーポイントとした。エントリーポイントで休憩と滑走準備中のわが若者メンバー2人、積雪十分な例年であれば、



かなりの入山者があるはずであるが、今回は先行の単独の若者と我々のみであった。台地はやや藪が気になるが、締まった下地の上にパウダーが 5~10 cm で気持ち良くターン滑走できた。ブナ林上部は 10 cm 程のパウダーの下地が湿雪で締まっておらず、横ずれしにくくやや苦労した徐々に横ずれする滑りやすい雪質となり、快適なブナ林滑走が楽しめた。



林道に降りる藪々地帯では小生は、踏み抜きがあり、ワカン装着で無難に下山。山スキーではビンディングトラブルなどに備えて4~5人毎に一組はワカンを持参しているが、このような場面にも役立ったのである。若者は最後まで横滑りを駆使して林道まで滑走したが、大腿にかなりの負担がかかったようでS A君は、宿で大腿の痙攣で往生したようです。



宿は野尻湖畔の定宿、ゲストハウス・ランプです。昨年からサウナを併設しており、これだけを目当てに訪れるお客さんも多いとのこと。時代は変わったなあと感心してしまいました

